

# 委員会レポート

委員会では、付託された議案等の審査のほか所管する事項の諸問題について調査を行っています。

先進地から学び...

## 行政視察の結果を報告します

### 《総務委員会》 6月22～23日



## 宅地の分譲販売で定住促進

#### ●定住化促進について

視察先：兵庫県淡路市役所  
淡路市は淡路島の北部から中部に位置する、人口約4万8,700人の市です。人口は、少子化が進み、年々緩やかながら減少傾向にあります。このような中、人口減少を食い止めようと、さまざまな定住化促進施策に力を注いでいます。特に、宅地分譲地の販売や土地・建物の情報提供は先進的で、淡路市への移

住を希望し、物件を探している方に、市が宅地建物取引業協会と連携して、積極的に販売、情報提供を行っていました。このほか、一定期間、固定資産税を助成する「暮らしてスマイル助成」、市の各種情報提供や移住の相談を行う「暮らし無料会員登録制度」や市職員が暮らしの場としての魅力を紹介する「淡路市紹介バスツアー」などを行い、新たな定住につながる交流人口の増

大を図ることに努めていました。本市でも、定住促進ビジョンを策定し、定住化対策に取り組んでいます。が、企業誘致、雇用環境、支援体制などの確かな判断のもと対策を講じていかなければならないと考えました。

#### ●災害対策について

視察先：人と防災未来センター（兵庫県神戸市）  
人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、地域防災力の向上、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することを目的として建設されました。センター職員の説明や展示物から、震災被害の悲惨さや防災の重要性を再確認しました。本市でも防災体制の確立に努めていますが、公共施設等の耐震化整備は十分ではないので、早急に進める必要があると考えました。

### 《教育厚生委員会》

7月22～23日



## 人口減少にストップ!! 日本屈指の子育て支援

#### ●高齢者福祉施策について

視察先：東京都日の出町役場  
日の出町は、東京都心から西へ約50キロメートルに位置する、人口約1万6,400人の町です。少子高齢化が進み、人口が減少してきたことから、道路や公共施設等の完備を機に、いち早く市政の重点をソフト事業に転換し、福祉、教育、産業振興に力を入れていきます。

高齢福祉事業に当たっては、「日本一お年寄りにやさしい町づくり」推進を宣言し、「お年寄りにやさしい福祉基本条例」や「高齢者の医療費助成に関する条例」を制定し、75歳以上

の方の医療費の無料化や人間ドック受診料の全額町負担、福祉センターを活用した健康増進・管理など、高齢者の生活に即した、施策の効果を実感できる事業を実施していました。

また、子育て環境の整備と出生率の向上にも力を入れ、次世代育成クーポンの支給や子どもの医療費の完全無料化などの事業を行い、若い世代の人口の回復に功を奏していました。

### ●子育て支援施策について

#### 視察先：静岡県長泉町役場

長泉町は、静岡県の東部に位置し、JR東海の新幹線三島駅や東名高速道路沼津インターチェンジに隣接する、人口約4万6000人の町です。恵まれた交通環境を背景に、各種企業の立地が相次ぎ、県内屈指の人口増加率を誇り、今後もさらなる発展が見込まれています。

長泉町では、福祉課、学校教育課に分かれて行っていた子育て支援を一体的に行うため、平成12年度から教育委員会内に「こども育成課」を設置し、これまで

の縦割りの枠組みを超えた、住民にとってわかりやすい組織にしました。こども育成課の設置は業務の効率化が図られただけでなく、出生から中学校卒業までの子育て全体に柔軟に対応することを可能にしました。

子育て支援の具体的な事業としては、保育園・幼稚園は第3子以降の保育料の無償化、放課後児童会の開設、不妊治療の助成、子どもの医療費の助成など、部門を超えて行っていました。

本市とは財政規模や産業構造等のさまざまな違いがあり、これらすべての施策を取り入れることは難しい一面がありますが、少子高齢化が進む現状の中で、人口増加に向けた施策や地域と行政が一体となった子育て支援や高齢者を支える取り組みは大いに参考になりました。

## 「食」と「農」を発信する

### ●三田市食と農の振興ビジョンについて

#### 視察先：兵庫県三田市役所

三田市は、兵庫県の南東部に位置する、人口約11万4,500人の市です。市域面積の約23%を農業振興地域が占め、2,152戸の農家が市の「食」と「農」を支えています。

「三田市食と農の振興ビジョン」では、三田市における「食」と「農」の今後のあるべき姿を農家だけでなく、一般市民も参加して、実現に向けた方策が描かれています。さらに、このビジョンの目標像の実現に向けた3つの戦略プロ

ジェクト「A・農村を元気にしよう」「B・市民が支えよう」「C・三田の食と農を発信しよう」が実践されています。

本市は農業を基幹産業と位置づけ、首都圏の食糧基地的役割を担っています。三田市のビジョンは、広く「農」の地域循環型社会を構築するため、大いに参考とすべき点がありました。特に、プロジェクトB、Cは、これまで本市の農業行政の中では持っていなかった視点であり、農業行政が消費者と深く関わりを持つことは非常に重要であることを学びました。

### ●楽農事業について

#### 視察先：兵庫県楽農生活センター（兵庫県神戸市）

兵庫県楽農生活センターは、県民誰もがどこでも気軽に「農」の大切さを学び、農作業等の体験や実践ができる拠点施設として整備運営されています。

楽農学校事業、農産物直売所やレストランは好評を得ており、「農」との関わりから、ゆとりと安らぎが実感できるライフスタイルの実現を目指しています。

本市の地元産の安心・安全な野菜をPRしていく中で、このような施設経営も大いに参考にしなければならぬと実感しました。

## 《経済委員会》 8月9～10日



## 総務委員会の構成が変わりました

横田太一氏の議員辞職に伴い、総務副委員長の互選を行いました。

副委員長 小林 久  
(9月8日から就任)